

2010.1.20

新政権が提起した諸問題（例示）

（L1－8B 小会合）

立法

- * 議会過半数獲得を目的とした 3 党連立体制をどう考えるか
 - 小党の意見を尊重することは全ての国民の声の尊重につながる
 - 小党の意見に左右されることは多数国民の意思に反する

行政

- * 首相 - 幹事長 2 頭体制をどう考えるか
 - 党務と政務の分担明確化は合理的
 - 国民の声が反映されるチャンネルが不明確（リーダーシップのあり場所
が不透明）
- * 官僚機構との関係をどう考えるか
 - 官僚支配からの脱却（政治主導）は妥当
 - 官僚を敵に回すことは不適切（優れたマシンは利用するのが得）

司法

- * 検察との距離のおき方をどう考えるか
 - 検察も行政の一環である以上、首相の関与は妥当
 - 権力による検察支配は不可

経済

- * 「コンクリートから人へ」という方針は妥当か
 - 無駄な公共事業を極力排除する姿勢は妥当
 - ある程度の公共事業は国力維持・雇用の確保といった観点から必要不可

欠

- * 事業仕分けに代表される新政権の無駄の削減努力をどう考えるか
 - 予算策定過程の透明性の向上、国民の参加意識の高まりという意味で大いに評価
 - 何が無駄であるかについての判断基準の曖昧さ（長期的に見て国益にかなうか）と決定の拙速さ
- * 非正規雇用対策、特に製造業への派遣規制をどう考えるか
 - 派遣利用による低コスト雇用慣行を正す意味で妥当
 - むしろ雇用機会縮小、失業者増加の恐れ
- * 経済果実の分配にのみ気を取られて、拡大戦略に欠けるという批判をどう考えるか
 - 過去の経済改革によって生み出された大きな格差を是正するのは当然（むしろ、適切な分配は拡大を生む源泉）
 - 社会保障の行き過ぎがもたらすモラルハザードの蔓延は、国家財政の破綻に通ずる

外交・防衛

- * 現行防衛体制の先行きどう考えるか
 - 冷戦の遺物である安保体制を根本的に見直すことは妥当（基地問題もそうした視点から対応—国外移転）
 - 自力で中国・北朝鮮に対応出来ない以上、現体制は維持すべし（アジアの目<「ビンの蓋」論>も意識。基地移転問題もその観点から判断）
 - 自国の防衛を外国に依存するという体制から脱却し、自力防衛体制を構築すべし（最終的には核武装）
 - そもそも武力で国を防衛するという観念自体が問題
- * テロ対策への関与をどう考えるか
 - ある程度の物理的関与は各国との協調という観点からも必要（湾岸給油は低コスト・貢献度大であり、終息決定は不適切）
 - 対テロ作戦は住民の社会生活水準の向上で、という姿勢は妥当

その他

* 岡田・小沢発言等で提起された天皇と政治との係わりをどう考えるか

— 天皇も一種の特殊な公務員と考えれば、その行動に首相等の意向が反映されることはある程度許容されてしかるべきである（特に外交面）

— 天皇は象徴と言う特殊な存在である以上、内政・外政的考慮からは極力切り離すべきであり、宮内庁長官の役割はそれを保証することにある

* 地球温暖化問題で、CO₂の25%削減という提案を行ったことをどう考えるか。

— 他国に先立って思い切った提案を行い、環境国日本のイメージを世界に広めたことは評価できる

— 実現極めて困難な課題に日本だけが取り組まざるを得ないような状況を作り出したことは、国際競争力の観点からも大いに問題である。

(その他思いつくものを付け加えて下さい)